

北國宝生能特別企画

能で冬を楽しむ

Winter Noh

しもと結う
葛城山に降る雪は
間なく時なく
思ほゆるかな



能楽師による解説

わたなべ しげと
渡邊 茂人

【狂言】「井杭」
いぐい
のむら ゆうじょう
能村 祐丞

【能】「葛城」
かづらき
さの げんき
佐野 玄宜

令和元年 12月22日(日) 午後2時開演 (同1時半開場) 石川県立能楽堂

入場料(全席自由・税込) 前売り(一般) 3,500円 学生(小・中・高校生) 1,500円 ※当日各500円増し ※未就学児童入場不可

【主催】石川県能楽文化協会、北國新聞社、富山新聞社

チケットのお求めは

北國新聞読者サービスセンター

TEL 076(260)8000

【受け付け時間】平日午前10時～午後6時(土日・祝日休み)

お問い合わせ

〒920-8588 金沢市南町2番1号 北國新聞社事業局内「石川県能楽文化協会事務局」 TEL076(260)3581

パソコン、スマートフォンから

北國新聞イベントガイド 検索

<http://hk-event.jp>

※パソコンやケータイからもチケットを購入できます。



令和元年度 北國宝生能特別企画

《番組》

解説 渡邊 茂人

狂言

井 杭

算置

能村 祐丞

某

清水 宗治
城戸 絃詩

後見

山田 讓二

能

里女
葛城の神

佐野 玄宜

葛 城

山伏

北島 公之

大鼓
小鼓

飯嶋六之佐
住駒 俊介

大鼓
笛

麦谷 室石

暁夫 和夫

山伏 渡貫 多聞

所の者 中尾 史生

後見

福岡 聡子
松本 博

地謡

高野 秀幸
山本 貢伸
酒井 章
渡邊 佐野
茂人 由於
明宏

【狂言】井杭 (いぐい)

井杭という男がいた。かわいがってくれる某(なにがし)にいつも頭を叩かれるのが嫌で、清水の観音に祈ると、自分の姿を消すことができる不思議な頭巾を授かる。某の前で面白がつて姿を消していると、驚いた某は通りがかりの算置き(算木を使う占い師)に井杭の行方を尋ねる。算置きはなかなかの腕前で井杭の居場所を言い当てるので、あわててその度に移動して逃げるが、やがて二人にいたずらを始める…

透明人間になれる頭巾を手に入れ、無邪気に振る舞う井杭のかわいらしさが見どころ。

【能】葛城 (かづらぎ)

出羽の国(今の山形県)羽黒山の山伏が、修行のため大和の国(今の奈良県)葛城山へ入る。葛城山を踏み進む山伏たちだが、あまりの大雪に、木陰で少し休もうと思っていると、一人の女性が見れて声をかける。よかつたら今夜は私の庵でお休みなさいという女の言葉に、山伏はありがたき思い、泊めてもらうことにする。庵に着くと、女は背負っていた標(しもと)を解いて火を焚いて山伏たちを暖め、標というのは、葛城山で拾い集めた細い枝で、大和舞の古い歌にも「しもと結ぶ葛城山に降る雪の間なく時なく思ほゆるかな」と詠まれているものであると語って聞かせる。山伏が、衣も乾いたので夜の勤めを始めようとする、女は、法力により葛葛(つたかづら)で身を縛られ、三熱の苦しみを受けていると告白し、助けてほしいと頼む。三熱の苦しみは神が受けるものであると山伏が不審に思っていると、女は葛城の神であるとのめかして姿を消す。

山伏は、山の麓に住む男に葛城の神について尋ねる。男は、昔、役行者(えんのぎょうじ)と葛城の神で、修行者の為に、葛城山と吉野山の間、岩橋をかけることになったが、葛城の神が、顔を見られることを恥じて夜にしか仕事をしなかつたので、怒った役行者は葛城の神を法力により葛葛で縛り上げたという話を語る。

合点のいった山伏が夜もすがら祈禱していると、葛城の女神が現れ、山伏の前で大和舞を舞って見せ、やがて夜が明け始めると、その姿を見られることを恥じてまた岩戸へと入ってしまった。

葛城山は、天岩戸(あまのいわと)があった場所と考えられており、岩戸に入った天照大神に出でてきてもらおうと天鈿女(あまのうづめ)が舞ったのが大和舞と伝えられていた。役行者は修験道の祖で、神や鬼をも従える法力を持っていた。前半は雪をかぶった笠に標を背負った前シテの姿、後半は月が照らす白銀の世界に舞う葛城の神の姿が美しい冬の人氣曲。



佐野 玄宜 (さの げんき)

昭和56年生まれ。シテ方宝生流佐野由於の長男。19世家宝生英照、20代宗家宝生和英に師事。昭和61年「鞍馬天狗」花見で初舞台。

平成11年、祖父・正治十三回忌追善能にて初シテ「経政」。

これまでに「石橋」「道成寺」「乱和合」を抜く。同門会「葛玄会」を主宰。早稲田大学大学院文学研究科修了。早稲田大学 学習院大学 桐山学園大学非常勤講師。